

# 令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和8年3月6日

幼保連携型認定こども園盛岡大学附属幼稚園

## 1 本園の教育目標

キリスト教精神に基づき、健康で明るい心の豊かな子どもを育てる。

心も体も健やかで明るい子ども

豊かに感じのびのびと表現する子ども

意欲を持って活動に取り組む子ども

## 2 本年度重点的に取り組む目標・計画

本園の教育目標に基づき、一人一人を大切にす保育を目指し、こども園として一日の保育の在り方を考えていくことを重点目標とする。

## 3 評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	自己評価	取組状況	関係者委員の評価	関係者委員の意見
1	教育保育の質の向上	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人丁寧に寄り添い、安心して楽しく園生活を送れるよう努めた。また、保護者にも日々の育ちや様子を丁寧に伝えるよう努めた。</li> <li>保育者同士、情報共有やコミュニケーションを意識し保育した。</li> <li>危険を予測したりヒヤリハットを全職員で共有したりし、安全に安心して遊ぶことができるよう声を掛け合いながら保育した。</li> <li>保育の質を高めていくために、保育についてもっと話ができればという課題意識がある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人へ丁寧に寄り添う姿勢、安全配慮、職員間の情報共有といった日々の取り組みが具体的に行われている。</li> <li>日々の保育の様子が保護者にも伝わっている。</li> <li>保護者アンケートの意見を真摯に受け止め引き続き丁寧な対応とコミュニケーション、家庭との連携を心掛けてほしい。</li> <li>引継ぎや情報共有は、口頭以外にもホワイトボードなどを活用する方法もある。</li> <li>ヒヤリハットは起きてしまっただけでなく、危険に気づくための物でもある。危険予測できることがファインプレーと捉え、小さなことでもヒヤリハットを出すことを習慣化していくとよい。</li> </ul>
2	園内研修の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修の持ち方を工夫しながら継続的に行うことができた。</li> <li>子ども理解をより深めていくために、ポイントを絞った話し合いをすることが課題。</li> <li>研修での学びを保育者や保護者と共有し、質の向上につなげていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の内容など、職員の学びについて保護者への情報発信をしていくとよい。</li> </ul>
3	子育て支援	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>サークルや見学の申込みを電話だけでなくメールでできるようにしたところ、手軽さからか申し込みが増えた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼少期からの親子の愛着形成や非認知スキルを育む重要性などについて、目を合わせて表情豊かに接することや読み聞かせの効果など、子育てに関する情報を保護者に適切に伝えていけると良い。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育体験は、参加の幅を持たせたことで、保護者の都合に合わせて参加できるようにした。また、参加者の感想をフィードバックし、園の教育・保育について理解を深めていただけよう努めた。</li> <li>・個別相談に柔軟に対応したり個人面談時期を工夫したりした。子どもの育ちや保護者の悩みを共有し、一緒に子どもの成長を支えられるよう努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育体験は、園生活の様子や成長を共有し、園の教育方針への理解を深める重要な機会である。柔軟な体制を整えながら、継続して取り組んでいけると良い。</li> </ul>
--	--	--	--

評価 (A…成果があった B…どちらかと言えば成果があった C…どちらかと言えば成果が無かった D…成果が無かった)

#### 4 総合的な評価結果

自己評価	理由	関係者委員の評価	関係者委員の意見
B	課題を共有し、一人一人が意識を高め日々の保育を行ってきたことで、保護者の評価にもつながった。より良い保育を目指していきたいという課題意識がある。	A	・先生たちが課題意識をもって自己評価しているが、教育保育の質の向上、園内研修の充実など、昨年度の課題を全員で意識し取り組んだ成果が大きく表れている。

評価 (A…成果があった B…どちらかと言えば成果があった C…どちらかと言えば成果が無かった D…成果が無かった)

#### 5 今後取組む課題

	課題	具体的な取組方法
1	教育保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語り合いを通し子ども理解を深めていく。</li> <li>・子どもが遊びの中での学びを深めていけるよう、園庭の環境を考え、保育に活かしていく。</li> </ul>
2	子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児サークルや園開放、子育て相談などを通して、地域の子育て世代の支援に努める。</li> <li>・保護者と共に子どもの成長を喜び、支えていく。</li> <li>・保護者の気持ちに寄り添いながら丁寧で誠実な対応を心掛ける。</li> </ul>